

教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

表現や鑑賞の能力を育成する観点から、形や色彩、材料の感情効果やイメージを捉えながら、アイデアスケッチ等により発想や構想を練ったり、作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなどして幅広く味わったりするなどの学習活動を充実する。

他者と考えを交流することにより見方や考えを深める事例

- 1 学年 第3学年
- 2 題材名 街の中で息づくアート
- 3 題材の目標



公共空間の目的や機能を考えて表現することに関心を持ち、コンセプトや使用する者の気持ちなどを基に表現の構想を練り、表現方法を工夫し、美しさの調和などを感じ取り、自分の価値意識を持って味わう。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 絵や文字を用いたアイデアスケッチによりイメージを具体化しながら、構想のポイントや留意点などを整理し構想を練り直す。(発想や構想の能力)

視点2： デザインのコンセプトに照らして作品を鑑賞し批評し合うことにより、表現の工夫などを捉え、見方を広げる。(鑑賞の能力)

5 主な学習活動(全4時間)

時間	学習活動
導入 (1)	・公共空間の目的や機能について理解し、全体の構想、使用する人の気持ちなどを踏まえて、企画書を作成する。
展開 (2)	・企画書を基にアイデアスケッチをし、デザインのコンセプトを整理する。 ・他者の助言等を基に構想に修正を加え、アイデアスケッチを練り直す。 視点1 ・材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して表現する。
まとめ (1)	・お互いの完成作成を鑑賞し、デザインのコンセプト、形や色彩の効果などの工夫を捉え、批評し合う。 視点2

〔共通事項〕の視点

- 指導計画の作成に当たっては、形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕を視点に、美術科で育てようとする資質や能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫することが重要です。

「B鑑賞」では

- 鑑賞の能力を高めるために、自分の価値意識を持って批評し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げるなどの学習を一層充実させましょう。
そのためにはまず、生徒自身が自分の思いや考えを持つことが大切です。考えるための時間の確保、手だてを工夫しましょう。

評価の観点

- 表現における、構想を練ったり、言葉で考えを整理したりする学習は、「発想や構想の能力」の観点で、鑑賞における、自分の価値意識を持って批評し合ったり、対象の見方や感じ方を広げる学習は、「鑑賞の能力」の観点で評価しましょう。